

地域資源である盆梅によるイベントを開催するとともに、観光施設を安価に周遊でき特典も受けられるパスポートの発行を行っている取組
(滋賀県長浜市)

【支援措置】

中心市街地活性化ソフト事業 総務省〔事業経費の1/2を特別交付税により措置〕

【事業費】

長浜浪漫パスポート事業 200万円(支援措置対象経費200万円)

盆梅展魅力強化事業 約1,500万円(支援措置対象経費約1,500万円)

中心市街地に点在する観光施設をパスポートによりつなぎ合わせることで、滞在時間の延伸を図る。

また、客室稼働率の低い旅行閑散期における集客策として、既存のイベントを強化することで新たな客層を獲得し、宿泊観光客の増加を図る。

長浜浪漫パスポート事業として、市内の有料観光施設を周遊できるパスポートを発行する。主体は観光協会であり、市は全体事業費(発行経費と施設分配金)にあたる200万円を負担し、H26、27は同額を中心市街地活性化ソフト事業の支援措置対象経費としていた。1冊1,000円で、購入者は市内16施設(通常入館料200～800円程度)から5施設を選んで入館することができ、最大2,000円以上お得に観光ができるほか、提示により飲食・宿泊施設、交通機関、体験施設など35か所で割引や粗品提供を受けられる。販売収入のほか、パスポート掲載による広告収入も確保している。

盆梅展魅力強化事業として、昭和27年から新春の風物詩として市内外の多くの方に親しまれている「盆梅展」の開催に合わせ、冬期の集客策としてイベントを実施する。事業費は、近年1,000～1,500万円前後で、運営費、人件費、印刷製本費、広告宣伝費に対して市が中心市街地活性化ソフト事業を活用して補助をし、全額を支援措置対象経費としている。H26～29は「梅」にちなんで一般社団法人日本梅酒協会との共催により、日本唯一の梅酒ソムリエが全国から厳選した約50種類の梅酒の飲み比べができる梅酒祭りを開催した。梅酒祭りの入場券を盆梅展や周辺観光施設の入場券とセット販売することで相乗的に集客を図った。

パスポート販売冊数は対象施設休館の影響を受けるなど、17,651～27,545冊と年度による増減が見られるが、H27は参画している観光施設入館者に占めるパスポート利用者割合が前年度比102%、H28は総入館者数が前年度比105%になるといった効果が現れており、観光客滞在時間の延伸及び通行量の増加に寄与している。

地域資源である盆梅と慶雲館を活用したイベントである盆梅展(入館者数40,000～55,000人/2か月間)の魅力さをさらに強化するために実施した梅酒祭り(3日間)には約1,000人/年の入場があった。H27は閑散期(1～3月)客室稼働率が3年振りに50%を超えるなど、冬期の宿泊客数の増加に寄与している。H30は梅酒祭りに代わり、東京でのPR活動や芸大生による展示空間プロデュースの効果によって盆梅展の入館者数は前年度比増となった。

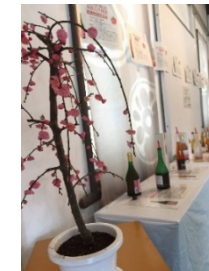
【計画書の事業名】 長浜浪漫パスポート事業、盆梅展魅力強化事業



〈長浜浪漫パスポート〉



〈盆梅展〉



〈盆梅展魅力強化事業(梅酒祭り)〉